

第23回 補聴と聴覚活用を語るサマーフォーラムのご案内

新年度が始まりました。いかがお過ごしでしょうか。補聴と聴覚活用研究会からこの夏のサマーフォーラムのご案内を差し上げる時期になりました。昨年はコロナ後、久しぶりの開催にも関わらず、言語聴覚士や教員の方々にご参加いただき盛況のうちに終わることができました。改めてお礼申し上げます。

折しも、大阪夢洲(ゆめしま)では「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに大阪・関西万博が開催されております。私たちは聴覚に障がいがある子どもたちにどのような未来をデザインすることができるのでしょうか。小さい会ではございますが、皆様と一緒に考えることができればと存じます。

今年度もサマーフォーラムは1日開催とさせていただきます。特別講演1として武蔵野大学准教授の今福理博先生から、発達心理学の最新の知見をもとにした言語発達や社会性の発達と多感覚情報の学習の重要性についてご講演をいただきます。午後からは特別講演2としまして前武蔵野大学教授の北 義子先生に聴覚障がい児や家族を支援する立場から、子どもとの関係性を構築する上で聴覚の果たす役割について具体的な実践例を提示していただきながらご講演をいただきます。

今年の新しい試みとして、昼食をとっていただきながらリラックスした雰囲気の中で小児の補聴器や人工内耳について、メーカーの方にプレゼンテーションと機器展示をお願いしております。是非、ランチを各自ご持参の上ご参加ください。そしてサマーフォーラムの特徴でもあります参加型の3分科会(乳幼児、小学(部)生、中学(部)生以降)を開催させていただきます。皆様の日頃のご実践での悩みや疑問点を出していただきながら、「聴覚障がい児にとって聞こえとは聴覚活用とは」の内容を深めていければと思います。最後に全体会では各分科会で話し合われた内容を全員で共有して、実践につなげられるヒントを探っていきたいと存じます。

教員、言語聴覚士、そして補聴器や人工内耳の販売や調整に関わっておられる方達と、補聴や聴覚活用について様々な立場からの感想や意見交換を通して、考えていくきっかけにできればと思っております。スタッフ一同、建設的な会になるように努めて参ります。皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げます。

2025年5月

補聴と聴覚活用研究会

ホームページ <https://ha-al.org>

事務局

村上たか子(川崎市中央療育センター)

中川辰男(横浜国立大学名誉教授)



【要 項】

1. 日 時 2025年7月13日（日曜日）10時～16時10分

2. 会 場 ウィリング横浜（横浜市港南区上大岡西1-6-1 TEL：045-847-6666）
アクセス：京浜急行/横浜市営地下鉄「上大岡駅」下車、徒歩5分

3. 参 加

○ 資格 言語聴覚士、教員、補聴器・人工内耳の関係者、学生

○ 定員 80名

○ 参加費

一般	5000円
学生	2000円

- 申し込み期限 6月30日（月）定員になり次第締め切らせていただきます
- 申し込み方法 ホームページ<https://ha-al.org>からお申し込みください
- スマートフォンからも右のQRコードを読み取りお申し込みができます
- 送金先 以下の銀行口座にご送金ください（申込後1週間以内）
ゆうちょ銀行 店名0九八 普通預金 3427392 補聴と聴覚活用研究会
- 入金確認後、「入金確認メール」を送らせていただきます
- 領収書は当日受付にてお受け取り下さい
- 参加費のご入金後の返金はできませんのでご注意ください
- 開催日が近くなりましたら、第二報と資料をメールでご案内いたします
- 情報保障として、特別講演とランチョンセミナーには音声認識ソフトによる文字通訳と逐次内容の修正を実施させていただきます

参加申し込み



4. その他

- ランチョンセミナー、昼食をとっていただきながら、子どもの補聴器と人工内耳のプレゼンと機器展示を行います。昼食はご自身で用意していただき是非ご参加ください
- 何かご質問等がございましたら、ホームページよりお問合せホームでお願いいたします
- スマートフォンからは右のQRコードを読み取りお問い合わせください

問い合わせ



【プログラム】

9時30分 受付

10時 オリエンテーション

10時10分 特別講演1

<題 目> 「言語発達や社会性の発達における多感覚情報の役割」

<講 師> 今福 理博先生(武蔵野大学准教授)

<講演概要> 言語や社会性の発達には、視覚・聴覚・触覚など多感覚情報による学習が重要です。本講演では、子どもの言語発達を中心に発達過程を概観し、多感覚情報が果たす役割や、言語発達や社会性の発達を支援するための視点について考察します。特に、子どもが「他者から学ぶ」という考えに基づき、他者との関わりの中で多感覚情報をどのように受け取り、統合するのかを探ります。視線・声の抑揚・身振りといった多様な手がかりと言語発達との関連を示し、言語発達を支える具体的な支援のあり方について議論します。

11時40分

11時50分 ランチョンセミナー「子どもの補聴器・人工内耳」

プレゼンと機器展示 オーティコン社、コクレア社、フォナック社、メドエル社(あいうえお順)

12時45分

13時 特別講演2

<題 目> 「聴覚が関係性構築に果たす役割を考えるー聴覚障害児とその家族が直面する課題ー」

<講 師> 北 義子先生(前武蔵野大学教授)

<講演概要> 聴覚は他の感覚に比し、その役割が注目されることは少ない。その一方で、「聴覚障害」児において、言語発達はハビリテーションの重要な課題とされてきた。演者は、前言語期のハビリテーションにおいては、子どもが聴覚と視覚などの多感覚を用い、自らの身体で世界を認知すること、およびそれらに意味を与える他者との関係性の構築が重要と考え、臨床場面で子どもが自ら気づく過程（時間と空間）を共にすることを目標にしている。聴覚障害児とその家族が直面する困難や支援による改善を具体的にお示ししたい。

14時30分

14時45分 分科会

3つの分科会(乳幼児、小学(部)生、中学(部)生以降)に分かれ、参加者紹介の後、特別講演の内容を含めて、皆さんが日頃のご実践で感じておられる疑問やご意見を出していただきながら、「聴覚に障がいがある子どもにとって聴覚活用とは」を深めていきたいと思います。

15時45分

15時50分 全体会

3つの分科会で話し合われた内容のまとめを行います。それぞれの分科会で話し合われた内容を全員で共有し、明日からの実践につなげられるヒントを探ります。

16時10分 終了